

MHSWニュース

発行 岡山県精神保健福祉士協会・公益社団法人日本精神保健福祉士協会 岡山県支部事務局

〒700-0915 岡山市北区鹿田本町3-16 岡山県精神科医療センター 相談室内

TEL: 086-225-3821 / FAX: 086-234-2639

e-mail: psw-ok@r3.dion.ne.jp

会長巻頭言

過ぎた一年を振り返り、新しい一年はこうありたい、と想いを巡らせる時期になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。今年度事業も皆様の御協力のおかげで概ね予定通りに実施でき、なにより研修については、研修委員の皆様の御尽力のおかげで、リモートでの不自由がある中でも充実した内容になっていること、改めて感謝しております。参加して下さった方は、対面実施と比べて物足りなさを感じる場面があるかも知れませんが、その中でもぜひ積極的に学びを得ようと能動的にご参加くだされば幸いです。

この稿を寄せている頃は、新型コロナウイルス感染症の感染状況も落ち着いています。この状況が続くこと、新しい年も皆様のご健勝でご多幸でありますよう、心からお祈り申し上げます。

岡山県精神保健福祉士協会

会長 河合 宏

《法人化「検討」ワーキング始動》

岡山県協会の法人化を検討するワーキングチームへの募集をしたところ、木野内留美さん(ももの里病院)、鈴木隆正さん(慈圭病院)、油谷圭介さん(山陽病院)の御三方から応募がありました。自主的に手を挙げてくださった方がいらっしゃったことを大変嬉しく、それ以上に心強く思いました。早速日程を調整し、数名の理事を加えて第一回の法人化「検討」ワーキングを、令和3年12月1日(水)19時からリモートで開催しました。理事から現状での協会の課題等を紹介した後に、ブレインストーミング的にやりとりし、活発に意見を交換しました。次回までの宿題も確認し、第一回ワーキングを終えております。今後も月一回の程度のペースで検討を続けていきます。

※「検討」に「」(鍵かっこ)を付けております。法人化ありきではなく、検討することに重きをおいたワーキングであることを意図した表記にしております。

文責 河合



《研修委員会より》



○全体研修(報告)

令和3年11月13日(土)に、「ヤングケアラーについて学ぶ～家族まるごと支援に向けて～」というテーマで、オンラインによる全体研修を行いました。今回は、2名の会員の方から、研修参加の感想をいただきました。

「ヤングケアラーについて学ぶ～家族まるごと支援に向けて～」に参加して

はじめまして。浅尾真由美(あさおまゆみ)と申します。昨年度まで香川県に住んでおり引っ越しを機に岡山県精神保健福祉士協会に入会させていただき、今回の研修で画面越しではありますが40名余りの協会員の皆様と「はじめまして」となりました。

現在岡山県教育庁人権教育・生徒指導課に所属。スクールソーシャルワーカーとして倉敷市・総社市の小中高等学校を担当しています。自身の体感としては今年度に入って急に「ヤングケアラー」という言葉や概念が現場で横行。SSWである私たちも理解が追いつかないまま対応に追われています。ヤングケアラーの研修ができる講師すらなかなか見つからないとも聞いていたそんなタイミングで飛び込んできた研修の案内。もちろん直ぐに飛びつきました。

現場ではヤングケアラー事案は「ひとり親家庭で幼い下の兄弟の世話担当のための不登校」というのが多くを占める感じがあります(個人的なものです)。しかし今回の研修で、坂本さんがお母さまの病気についてはっきりと告げられたのは高校時代というのを聞き、もしかしたら小中学生の彼らは親の病気のことは知らされておらず、情報として支援者まで届いていないという実態があるのではないか?という気づきがありました。要対協ケースであれば行政と情報のやり取りも可能ですので、支援を組むうえで保護者の疾患の有無はこちらが丁寧に聞き取り、もし医療連携が出来うるのであれば、まさに家族まるごと支援に向けて、学校と医療が連携するためのパイプ役をSSWが担えるのではと考えています。

親の病気・病気から来る生活の弊害は、子どもたちだけの力ではいかんともしがたい。子どもが子どもらしく過ごせる時間は短いです。私たち大人が保障していかなければいけない子どもの権利だと思います。

最後に、河合会長が「コロナが落ち着いたらお酒?食事?を」との閉会時のお言葉。ぜひともそのような機会が一日も早く取り戻せることを祈ります。皆様と顔を合わせての「はじめまして」が出来る機会を楽しみにしております。

学びの多い研修の場をありがとうございました。

岡山県教育庁人権教育・生徒指導課 浅尾真由美



ヤングケアラーについて学ぶ～家族まるごと支援に向けて～を受講して

令和3年11月13日(土)に「ヤングケアラーについて学ぶ～家族まるごと支援に向けて～」を受講しました。今回の研修は Zoom を活用し、横浜創英大学看護学部横山恵子先生の講義、こどもぴあの方の体験談、参加者の意見交換と3部構成の研修会でした。

参加者の意見交換では、SW が取り組めることは？というテーマで話し合いを行いました。その中で、現在の福祉制度では自助の考え方が中心になっていることや、実際の業務の中でヤングケアラーと出会う機会が少ないことが課題として挙げられました。講義の中で横山先生は、「家族は家族。支援者にはなれない。だからこそ、支援者を頼ってほしい。」と話をされていました。その時、実際に支援者を頼れる方がどれくらいいるのだろうかという疑問に思ったのと同時に、大人でさえ精神的な不調を感じても専門機関に相談するのに躊躇する方がいる中で、子ども達に支援者を頼ってほしいと促すだけでは足りないのではないか。支援者の方から子ども世代と積極的に関わる機会を増やす必要があるのではないかと思います。

私は、発達障害の方の支援を行っていますが、発達障害へのマイナスイメージが当事者の可能性を狭くしていると感じる事がとても多いです。ヤングケアラーに関しても可哀想な子どもとマイナスイメージを持たれることが多く、本人のストレングスにまでは注目されにくいそうです。社会の認識を変えていくのはとても難しいことだと思います。しかし、支援者がアクションを起こし続けることでポジティブな変化は起こせると思います。私は、今回の研修で感じた事を大切にしながら日々の業務に励んでいきたいです。

まな星クリニック 濱野瑛奈



○基礎コース研修(報告)

令和3年11月6日に基礎コース研修が行われました。

1年目は「記録の書き方」について、岡山市保健所の稲山耕平さんを講師に迎え、講義をしていただきました。講師や3年目受講者の協力もあり、Zoom 研修でありながらもロールプレイや個人ワークで行った記録の共有を行いました。目的に応じた記録文体などを学び、自身の記録を振り返り、他機関の記録を知ることが出来ました。

受講者のお二人から感想をいただいていますのでご紹介します。

グループワークでは、他の人の記録から、多職種に目に留めてもらう工夫や心構えについて知ることができました。一方で、記録の戸惑い、文章が長くなり時間がかかるといった共通の悩みが話題になりました。

講義を受けSOAIPを利用して“アセスメントから記録”をしました。いつもとは違う記録の書き方をしたところ、アセスメントの目的、根拠が明確になり、本人の言葉や主訴、それに伴う出来事の何を記録に残すのか、つながりがわかりやすい記録になりました。また、アセスメントにまず集中することで、どのように介入できるかを考える幅も広がったように思いました。研修に参加し、ワーカーにとっての記録の意義を再確認できました。日々、振り返りながら支援に生かしていきたいと思います。 岡山市こころの健康センター 山口 智絵

本研修は「記録の書き方」について学ぶ機会でした。2時間半の限られた中で、講義聴講、課題作成、意見交換等の研修形式で記録の書き方の要点を整理することができました。記録を残す意味や目的、状況や用途に合った記述方法を選択することの必要性など、日ごろ意識することもなくケースに追われ、漠然と文書作成に当たっていたことを痛感しました。事務に苦手意識を持つ私は、ついつい後回しにしがちでしたが、今回学んだポイントは実務で大変役立てられそうです。限られた時間内でのケースワークと事務の両立に大変苦労していますが、職域や立場を踏まえながらも、医者や看護師としてではなく、精神保健福祉士としての視点を大事にした、コンパクトでわかりやすい記録作成に努めていきたいと考えています。 徳島保護観察所 畝木奈津恵

2年目研修については、岡山県精神科医療センターの黒岡真澄さんを講師にお迎えし、事例のまとめ方の講義とグループワークを行いました。

大変分かりやすい講義でグループワークも3年目の皆様にサポートいただいて、有意義な学びが得られたと思います。

2年目と3年目の受講者お二人から感想をいただきました。(次ページ)





今回のテーマは「事例報告のまとめ方」でした。講義では、精神科医療センターの黒岡 PSW より、事例検討の基礎的知識、様々な方法論、事例検討での出来事等、ご経験も交えながら教えていただきました。

特に印象に残ったのは、そのケースを一番知っているのは提供者であるという視点、提供者も参加者も「お土産」をもてるような事例検討の方法論があるということです。「本人のいるところに近づく」ということを、次の研修では実際に事例検討を通して体感できるかなと楽しみになりました。

ブレイクアウトルームでは、1年先輩の PSW に、次回研修の事例検討に向けてアドバイスをもらいました。年の近い他院所の PSW と話ができる機会はあまりなく、毎研修元気をもらっています。

3年目の私は、よく行き詰まり、漠然とした無力感に苛まれることがあります。そんなときには事例検討で自分のもやもやを外在化し、ソーシャルワークを深みのあるものにしていきたいです。最後になりましたが、研修の開催に当たり、ご尽力いただきました黒岡 PSW はじめすべての皆様に感謝申し上げます。

林病院・金関秋音

令和3年11月6日(土)の基礎コース研修(2年目)に3年目として参加しました。グループワークでのファシリテーターなど研修運営を手伝う役目をいただきつつ、事例をまとめることの意義や具体的なまとめ方を学ぶという2年目の研修に再び取り組む好機となりました。職場内の事例検討会へ参加時に、自分が担当している他のケースにも応用できないかと思いを馳せたことや、事例を提供する際に味わった”生みの苦しみ”を思い返し、事例検討会が参加者全員の成長を促し、内的体験を深める場であったことを、あらためて実感しました。今後、みずからが事例検討会のスーパーバイザー、企画や開催を担っていく上で、理論と実践を積み上げる良い機会となりました。研修の開催に当たり、講師の黒岡さんや研修委員の皆様にご尽力いただきましたこと、深く感謝申し上げます。

河田病院 那須香織

3年目研修では研修運営について、各研修のサポートを通じて学んでいます。前述の感想にもあるよう、司会やファシリテーター、テーマに対する投げかけなどの役割を担い、研修獲得目標に到達するためにどう働きかけるのか、どのようなサポートが必要か、自分がこうできたらよかったなど、自ら学びを得ようと動いています。振り返りでは Zoom 環境での個別の声掛けの難しさなどに気付き、頼もしい存在になっています。

令和4年2月19日に行う1年目第4回目研修「アセスメントについて」も例年通りの充実した内容になるよう準備中です。また、第2回研修の学びを活かして、2年目の第3回目研修「事例検討」に向けての準備ができつつあると感じています。次回も3年目のサポートを受けつつも主体的な研修になることを期待しています。





○日本精神保健福祉士協会基幹研修Ⅰ

岡山県精神保健福祉士協会基礎コース(1年目)研修 合同研修(報告)

令和3年12月4日に日本精神保健福祉士協会基幹研修Ⅰと岡山県精神保健福祉士協会基礎コース研修の合同研修が開催されました。

今回は、2年ぶりの開催でZoomでの実施となりました。他県から参加して下さった方もあり、オンライン研修の強みもあったかと思いますが、慣れない運営で、参加された皆様には、ご不便をおかけした点もあり申し訳なく思っております。

アンケートでは、講義・シンポジウム・グループワークともに、充実した内容との評価をいただきました。

午前中は「日本精神保健福祉士協会の役割と課題」「精神保健福祉士の価値」の講義、午後からは「精神保健福祉士の実践」の講義に続き「自分が悩んだ時に取り組んだこと～新人から現在まで～」をテーマにシンポジウムとグループワークが行われました。グループワークでは、活発な意見交換がされており、情報共有の時間もグループワークで話されたことを自ら手をあげて発言して下さるなど、積極的に参加していただき、皆様の熱が伝わってくるような1日だったと感じております。感想の中にも「精神保健福祉士の果たすべき役割を考えられた」「価値に対して具体的に深められた」「1つ1つの実践の意味を考えることができた」「先輩方の悩みを聞き、自分と重なるところが大きく、精神保健福祉士としての基本は同じ事が実感できた」「多様な人と話ができ悩みの共有や整理ができた」「元気が出た」など学びを深め、明日からの実践に前向きになれた様子が表現されていました。

精神保健福祉士の資格の意味・価値・実践の基本を深め、シンポジウムを通して得た実践上でのヒント、横のつながり等が今後の実践に生かされることを期待しております。

参加者・講師・シンポジスト・コーディネーター・研修担当者・事務局の皆様のご協力のお陰で、滞りなく終了することができました。感謝申し上げます。



《2021年度 ブロック災害対策連絡会への参加報告》

『忘災× ⇒ 備災・防災◎』

令和3年11月14日(日)日本精神保健福祉士協会主催の「中四国ブロック災害対策連絡会」がリモート開催され、当協会からは主催者側の河合委員長の他に4名の災害対策委員が参加しました。

連絡会の目的は「ブロック内での連携構築・災害支援ガイドラインの活用・災害対策活動の活性化」等です。前半では、東日本復興支援委員会の菅野委員長から実際の発災時に刻々と変化する緊迫した状況下での対応の実際をお聞きし、有事に対応すべく平時からの取り決めが最重要である事を学びました。後半は、中四国9県各支部担当者での情報交換が行われました。各支部からは有事の際のメーリングリストやグループLINEの活用など、連絡方法について試行錯誤している点が共通話題として挙げられました。また、支援体制の仕組み作り、ネットワークの強化、意識啓発、地域毎の担当者配置、災害対策計画のブラッシュアップ等など、取り組むべき項目が沢山ある事を実感しました。有事に備えて会員相互のさらなるネットワーク強化が必要です。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

災害対策委員会 矢木公久



《座談会～つながるカフェ～の報告》

前回のMHSW通信や会員MLでご案内してましたリモートでの座談会～つながるカフェ～を行いました。第1回を11月21日(日)10時から、第2回を12月16日(木)20時から、それぞれ7名、6名で行いました。堅苦しくなり過ぎず、新たなつながりに感謝しながら、1時間程度和やかな時間を共有しました。

第1回では、それぞれに頑張っていることを語り合いました。以下に、参加して下さった方々の感想を載せていますのでご覧ください。

- 新たな出会いもあり、それぞれに頑張っていることもわかり、充実した楽しい時間がすごせました。つながりの大切さを再確認。
- 少人数で話ができ和やかに過ごせてよかった。それぞれの感じていることや思いを聞けて有意義な時間を過ごせました。また参加したいと思える会でした。
- 皆さんと楽しい時間が共有できました。安心安全な場で話すことができてよかったです。
- 初めましての方とも色々な話ことができました。オンラインでもつながれるってありがたいですね！
- 口から吐くことが出来て、力を貰えました。一人はとてもしんどい事ですね。
- とても意義ある試みだったと思います。今後も継続出来たらよいなと思います。

第2回では、自己紹介でそれぞれの元気の源となる食べ物『パワーフード』を紹介し合い、笑いに包まれてスタートしました。しかし、気付けば「専門性について」「上手く相談することについて」等、熱く真面目に語り合っていました。参加者全員翌日も出勤、ということで余韻なくサッと切り上げましたが、密度の濃い時間を過ごせました。「昨日参加した効果がありました。朝起きた時に身体が軽くなっていました。」と、翌朝一人の参加者から連絡を頂きました。気持ちが軽くなることを目指した座談会でしたが、身体も軽くなった、という感想を聴けて嬉しく思いました。

今後も毎月一回のペースで予定したいと思います。皆様のご参加お待ちしております。

文責 河合



岡山県精神保健福祉士協会ホームページURL

<https://psw-okayama.wixsite.com/psw01>

(会員ページ パスワード: okym_psw)



新入会員を紹介します！！

すっかり浸透してきた(?)紙面での新入会員の紹介コーナーです。今回もフレッシュな会員の方2名を紹介します。



【名前】 菅田 和真

【所属】 医療法人梁風会 こころの医療

たいようの丘ホスピタル 地域医療連携室

【趣味】 目的地も決めず、自転車でぶらぶらすることです。E-bike の購入も考えています。キャンプが今後の趣味になる予定で、キャンプ用品を集めています。

【目標】 患者様のニーズを出来る限り叶えられるような精神保健福祉士 になりたいと考えています。患者様のニーズにも色々な種類があり、ニーズを見極める力が必要だと考えます。そのため、患者様の思いに耳を傾け、患者様との日々のかかわりを大切にしていきたいと考えます。

【一言】 今年度より入職いたしました。基礎コース研修等に参加させて頂き、同期との交流の場で、それぞれ葛藤しながら仕事に励んでいることを学ぶことができました。今後も研修等に積極的に参加し、より良い精神保健福祉士となれるよう学んでいきたいと考えています。よろしくお願い致します。

【名前】 國枝 のぞみ

【所属】 旭川荘 岡山障害者就業・生活支援センター

【趣味】 猫と過ごす

【目標】 寄り添う気持ちを大切にしながら、障害のある方が、いきいきと働き続けることができるように、そして、職場の一員として活躍することができるように、支援をしたいです。

【一言】 他業種から障害者福祉分野に転職しました。日々、障害者福祉業界の不思議や疑問に直面しながら、仕事をしています。多くの先輩方とつながり、思いや考えを学ばせていただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。



《理事会の報告》

開催日時: 2021年9月24日(金) 19:00~21:00

開催場所: 精神科医療センター・Zoom (ハイブリッド開催)

出席者: 河合・中山・横山・正岡・木本・矢木・奥田・牧野・堀家・春名・黒岡・谷口(敬称略)

協議内容(概要)

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| ○研修について(全体・基礎コース・基幹研修) | ○自殺防止対策事業について |
| ○Zoom運用について | ○ホームページ・メリスについて |
| ○災害対策委員より | ○日本協会の動き |
| ○会員情報について: 入会・退会希望者・会員情報の変更 | |
| ○派遣・推薦・後援・周知依頼について | ○Zoom 座談会について |
| ○法人化ワーキンググループについて | ○物品管理について |
| ○メールアドレスについて | ○その他 |



《事務局からのお知らせ》

①県協会事務局アドレス変更のお知らせ

このたび、岡山県精神保健福祉士協会のアドレスが変更となりました。

旧アドレスは令和3年12月末で利用できなくなります。事務局へメール連絡を頂く際には下記新アドレスに送信よろしくお願いいたします。

旧アドレス: psw-ok@r3.dion.ne.jp



新アドレス: ok_mhsw@yahoo.co.jp

②会員情報(氏名・所属先・郵送先など)の変更がある方は、ホームページの「入退会届、変更届について」から変更届をダウンロードし、早めに事務局へ FAX・郵送・持参してください。ダウンロードが難しい方は事務局にご連絡ください。電話のみでの変更は受け付けておりませんので、変更届の提出をお願い致します。

なお、退職・異動などで連絡が届かない状況になっている方もおられます。変更・退会届が提出できていないと思われる方がおられる場合は、把握されている方からの連絡もお受けしておりますので、ご協力をお願いします。

③令和3年度の県協会会費(年会費2,000円)について、振込がまだの方は、早めの入金をお願い致します。なお、会員が複数おられる機関は、払込書に納入者全員の氏名をフルネームで記載していただきますようお願いします。

口座記号番号:01360-2-102523(ゆうちょ銀行)

加入者名:岡山県精神保健福祉士協会(オカヤマケンセイシホケンフクシキョウカイ)

④令和2年度の県協会会費の納入ができていない方は、同じく上記口座への振り込みをよろしくお願いいたします。また、二重払いとなる方がおられますので、未納の心配がある方は事前に事務局にお問い合わせいただけると助かります。2年間の会費滞納がありますと、本人の意思とは関係なく、会員資格の喪失となりますので、ご注意ください。

⑤新入職員など入会を考えておられる方がおられましたら、入会届と併せて、メーリングリストへの登録も行うよう声掛けをお願いします。なお、メーリングリスト登録についてもホームページに記載していますのでご確認ください。

岡山県精神保健福祉士協会 事務局

〒700-0915 岡山県岡山市北区鹿田本町3-16

岡山県精神科医療センター 相談室内 (担当:牧野・黒岡・谷口・白川)

TEL(086)225-3821 / FAX(086)234-2639

E-mail:ok-mhsw@yahoo.co.jp

